

県内の患者数

矢印は、前週の数に対して ↑ 増加 ↓ 減少 → 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 1,633	2,373	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 30	33	ヘルパンギーナ	↑ 4	2
咽頭結膜熱	→ 22	22	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↓ 39	49
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	→ 78	79	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↓ 473	598	流行性角結膜炎 (はやり目)	↓ 11	16
水痘	↑ 74	59	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↓ 0	1	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑 (りんご病)	→ 5	6	マイコプラズマ肺炎	→ 4	3
突発性発しん	→ 35	33	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い
感染症

- 🌟 インフルエンザ
- 🌟 感染性胃腸炎
- 🌟 A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- インフルエンザは、報告数 1,633件(前週報告数2,373件)と減少。
地区別では、人吉、有明、山鹿に多く報告がみられる。
年齢別では、10～14歳の265件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 感染性胃腸炎は、報告数 473件(前週報告数 598件)と減少。
地区別では、山鹿、天草、有明に多く報告がみられる。
年齢別では、1歳の82件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 78件(前週報告数79件)とほぼ同数。
地区別では、熊本、菊池、八代、天草に多く報告がみられる。
年齢別では、10～14歳の11件を最多に、幅広い年齢層から報告されている。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血 性連鎖球 菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギーナ	流行性 耳下腺炎	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	クラミ ジア肺炎
熊本市保健所	323	5	4	50	137	32	0	3	15	0	1	11		7				2
山鹿保健所	85	0	0	0	41	3	0	0	0	0	0	0	*	*				
菊池保健所	173	1	7	6	43	12	0	0	9	0	0	8						
阿蘇保健所	82	0	0	2	10	1	0	1	0	0	0	0	*	*				1
御船保健所	52	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	112	7	3	5	34	8	0	0	2	0	0	1						
水俣保健所	73	1	0	0	13	0	0	0	2	0	0	5	*	*				
人吉保健所	174	6	0	2	29	0	0	0	1	0	0	0	*	*				
有明保健所	268	1	7	6	67	6	0	0	4	0	0	2		4				1
宇城保健所	134	4	0	2	35	10	0	0	0	0	0	5						
天草保健所	157	5	1	5	55	2	0	1	2	0	3	7						
計	1633	30	22	78	473	74	0	5	35	0	4	39	0	11	0	0	4	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上
インフルエンザ	1633	3	23	78	82	85	92	137	98	136	91	79	265	73	62	106	66	65	36	31	25
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上						
RSウイルス感染症	30	5	10	12	2		1														
咽頭結膜熱	22		3	7	3	2	2			2	1										
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	78		1	4	9	6	8	10	9	10	3	3	11		4						
感染性胃腸炎	473	5	24	82	41	41	37	33	27	27	19	20	58	13	46						
水痘	74	1	4	19	15	11	11	3	3	6	1										
手足口病	0																				
伝染性紅斑	5				2				1	1			1								
突発性発しん	35	2	16	17																	
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	4				4																
流行性耳下腺炎	39			4	10	5	6	5	3	1	4		1								
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	11		1										1	1	1	1	2			2	2
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	4	1	1		1													1			
クラミジア肺炎	0																				

**大きな流行が発生
又は継続しつつある地域**

インフルエンザ：熊本・山鹿・菊池・八代
人吉・有明・宇城・天草

感染性胃腸炎：山鹿

流行性耳下腺炎：水俣

インフルエンザ

県全体のインフルエンザの患者報告数は4週連続で減少しましたが、警報レベルは継続中です。阿蘇を除く10地域では、前週より報告数が減少していますが、熊本、山鹿、菊池、八代、人吉、有明、宇城、天草の各地域は未だ警報レベルにあります。また、学級閉鎖等の報告も続いており、引き続き注意が必要です。インフルエンザは、突然の高熱と寒気、頭痛、全身のだるさ、筋肉痛などの全身症状が特徴です。時には肺炎や脳症などを併発して重症になることもあります。予防には、①流行時には人混みを避ける②手洗い・うがいを習慣づける③栄養、休養、睡眠を十分に取る④部屋の換気と保湿に心がけるなどの対策を行いましょう。もし、インフルエンザにかかった場合は、学校や職場へは無理して行かず、早めに医療機関を受診し治療を受けましょう。また、咳エチケットを心がけ、外出を控えるようにしましょう。